

2024年11月期 第2四半期決算説明資料



2024年7月12日

ニッセイ（日本毛織株式会社）

東証プライム市場 3201

2024年11月期第2四半期 ハイライト

2024年11月期第2四半期は、前年同期比で売上高は減収、
営業利益以下の各利益は増益

売上高	536.0億円	(前年同期比 1.7%減 ↓)
営業利益	46.6億円	(前年同期比 2.2%増 ↑)
経常利益	50.6億円	(前年同期比 5.2%増 ↑)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	36.7億円	(前年同期比 10.9%増 ↑)

1. 2024年11月期第2四半期 実績 P 4～
2. 2024年11月期 業績予想 P15～
3. 成長ドライバー P23～
4. 参考資料 (ニッケグループについて) P31～

1.2024年11月期第2四半期 実績



連結業績概要



収益性と事業リスクを考慮し当期から人とみらい開発事業の通信・新規サービス分野を縮小した影響等で、売上高は減収となるも、営業利益以下の各利益は増益

(単位：百万円)	第2四半期実績			前年同期比増減		2024.7.12時点 業績予想進捗
	2022/11月期	2023/11月期	2024/11月期	金額	比率	比率
売上高	53,616	54,548	53,608	-939	-1.7%	48.3%
営業利益	5,187	4,570	4,668	98	2.2%	42.4%
営業利益率	9.7%	8.4%	8.7%	0.3%	-	-
経常利益	5,811	4,810	5,062	252	5.2%	43.6%
特別損益	79	137	-47	-184	-	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,811	3,313	3,674	360	10.9%	47.7%

セグメント別業績



		第2四半期実績		前年同期比増減	
		2023/11月期	2024/11月期	金額	比率
(単位：百万円)					
衣料繊維事業	売上高	15,091	15,306	214	1.4%
	営業利益	1,317	1,195	-121	-9.3%
	営業利益率	8.7%	7.8%	-0.9%	-
産業機材事業	売上高	11,711	12,173	462	3.9%
	営業利益	414	438	24	6.0%
	営業利益率	3.5%	3.6%	0.1%	-
人とみらい 開発事業	売上高	16,341	12,703	-3,637	-22.3%
	営業利益	3,258	3,387	128	3.9%
	営業利益率	19.9%	26.7%	6.8%	-
生活流通事業	売上高	9,536	11,369	1,832	19.2%
	営業利益	311	426	114	36.6%
	営業利益率	3.3%	3.7%	0.4%	-
その他 調整	売上高	1,868	2,056	188	10.1%
	営業利益	-732	-779	-47	-
合計	売上高	54,548	53,608	-939	-1.7%
	営業利益	4,570	4,668	98	2.2%
	営業利益率	8.4%	8.7%	0.3%	-

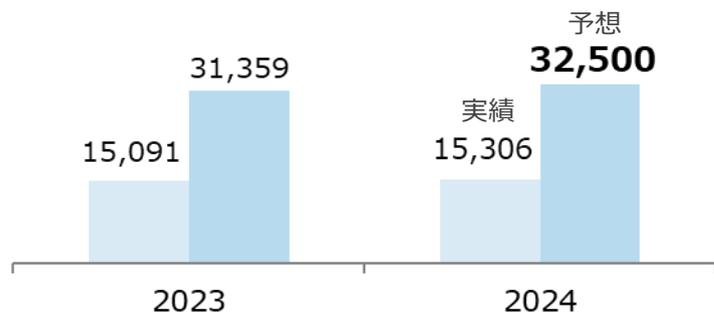


衣料繊維事業

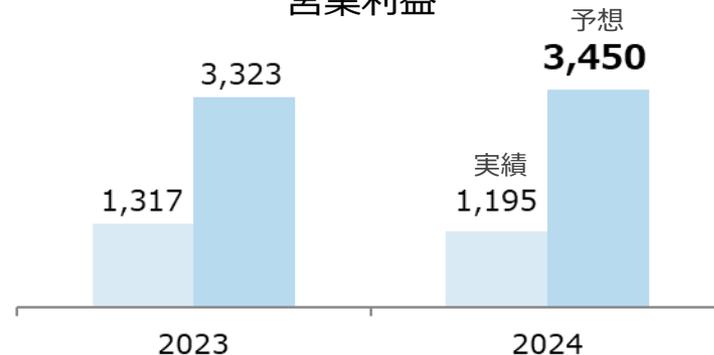


売上高 15,306百万円 前期比 +1.4%
営業利益 1,195百万円 前期比 ▲9.3%

■ 中間 ■ 通期 売上高 単位：百万円



営業利益



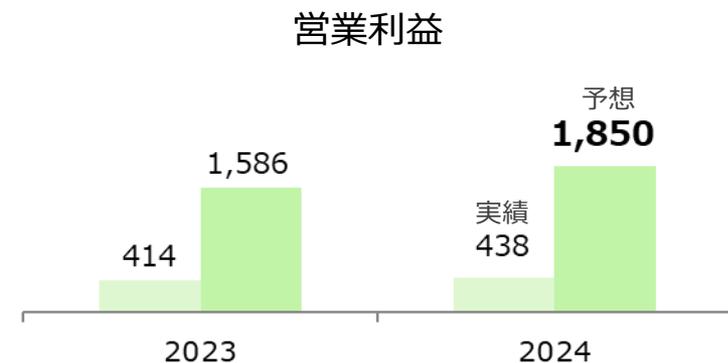
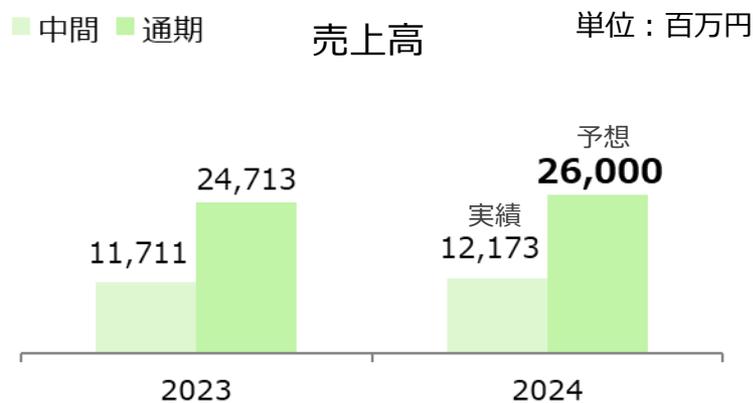
<業績概要>

- ✓ 学校制服用素材販売は、価格改定前の引取り需要等が増加し堅調。
- ✓ 官公庁制服用素材、一般企業制服用素材販売は、ともに好調。
- ✓ 一般衣料用素材は、国内海外とも不調。
- ✓ ヤーン分野は、糸の販売が減少し不調。
- ✓ 昨年から引き続き、円安による羊毛原料コスト上昇やエネルギー費高騰が収益を圧迫。

産業機材事業



売上高 12,173百万円 前期比 +3.9%
営業利益 438百万円 前期比 +6.0%



<業績概要>

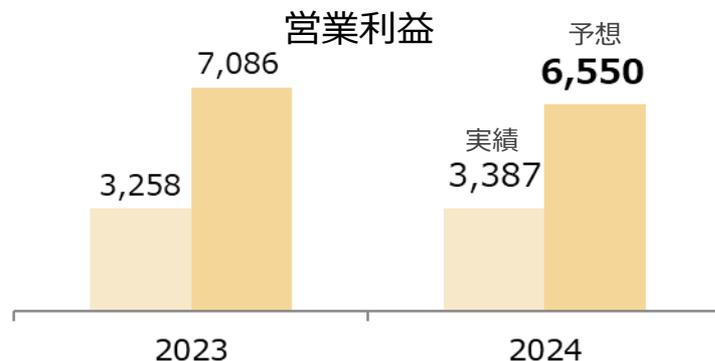
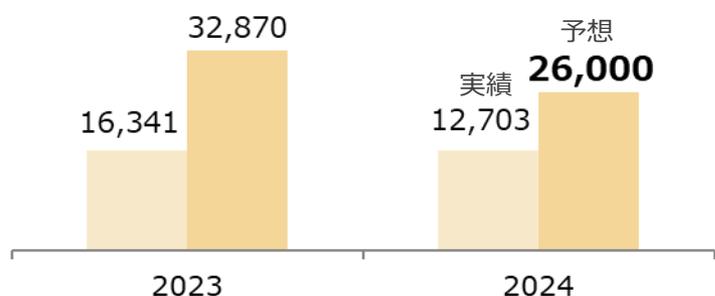
- ✓ 車両向け不織布・縫製糸、結束紐等は、低調。
- ✓ 車載電装品製造ラインのFA設備の販売は、顧客からの受注が回復傾向にあり好調。
- ✓ 環境・エネルギー関連資材は、第2四半期から(株)カンキョーテクノがグループに加わり増収。
- ✓ ラケットスポーツ関連は、市況の回復に加え新商品が好評で好調。
- ✓ 生活関連資材は、中国市況低迷の影響を受け楽器用フェルトが不調。

人とみらい開発事業



売上高 12,703百万円 前期比 ▲22.3%
営業利益 3,387百万円 前期比 +3.9%

■ 中間 ■ 通期 売上高 単位：百万円



<業績概要>

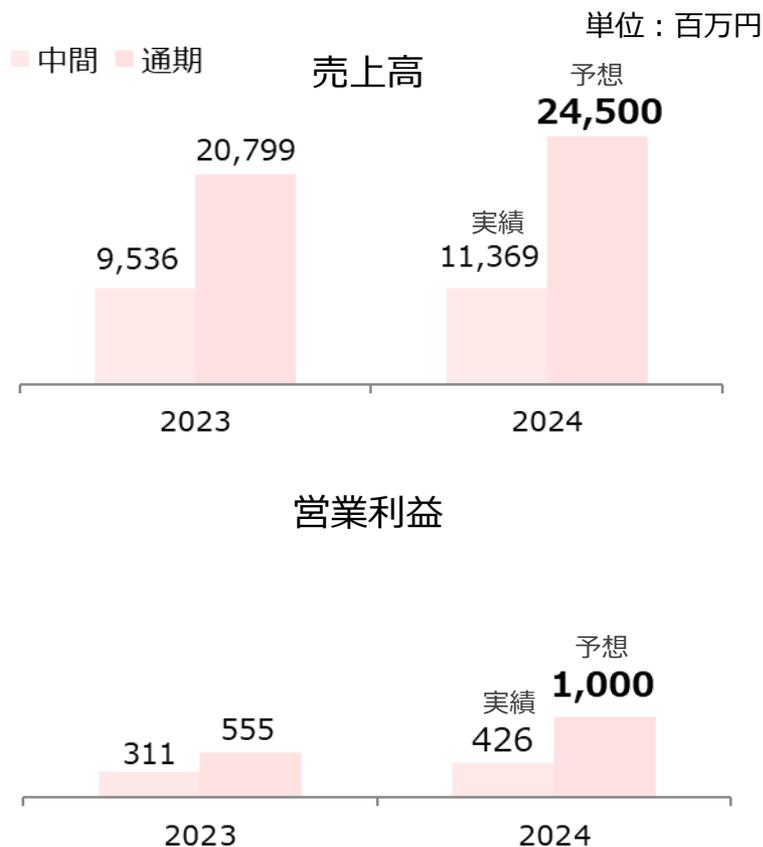
- ✓ 商業施設運営は、コルトンプラザのリニューアル効果が継続し堅調。
- ✓ 不動産賃貸事業は、前年同期を上回る。建設関連は、前年同期並み。
- ✓ 保育関連は、前年同期並み。介護関連は、利用者・入所者数が徐々に回復し、前年同期を上回る。
- ✓ スポーツ関連は、来場者増で前年同期を上回る。
- ✓ 通信・新規サービス分野は、収益性と事業リスクを考慮し当期から事業を縮小。



生活流通事業



売上高 11,369百万円 前期比 +19.2%
営業利益 426百万円 前期比 +36.6%



<業績概要>

- ✓ 寝装品は、EC販売が低調。業務用品は、災害用毛布等が好調。
- ✓ スタンプ販売は、前年同期並み。スタンプ用インクの販売は国内不調も海外好調。
- ✓ 家具類販売は、前期より加わった(株)インテリアオフィスワンの業績が寄与し好調。
- ✓ 生活家電販売は、前年同期並み。
- ✓ 昨年から引き続き、仕入価格上昇やEC関連の広告宣伝費・物流費の上昇が全体の収益を圧迫。

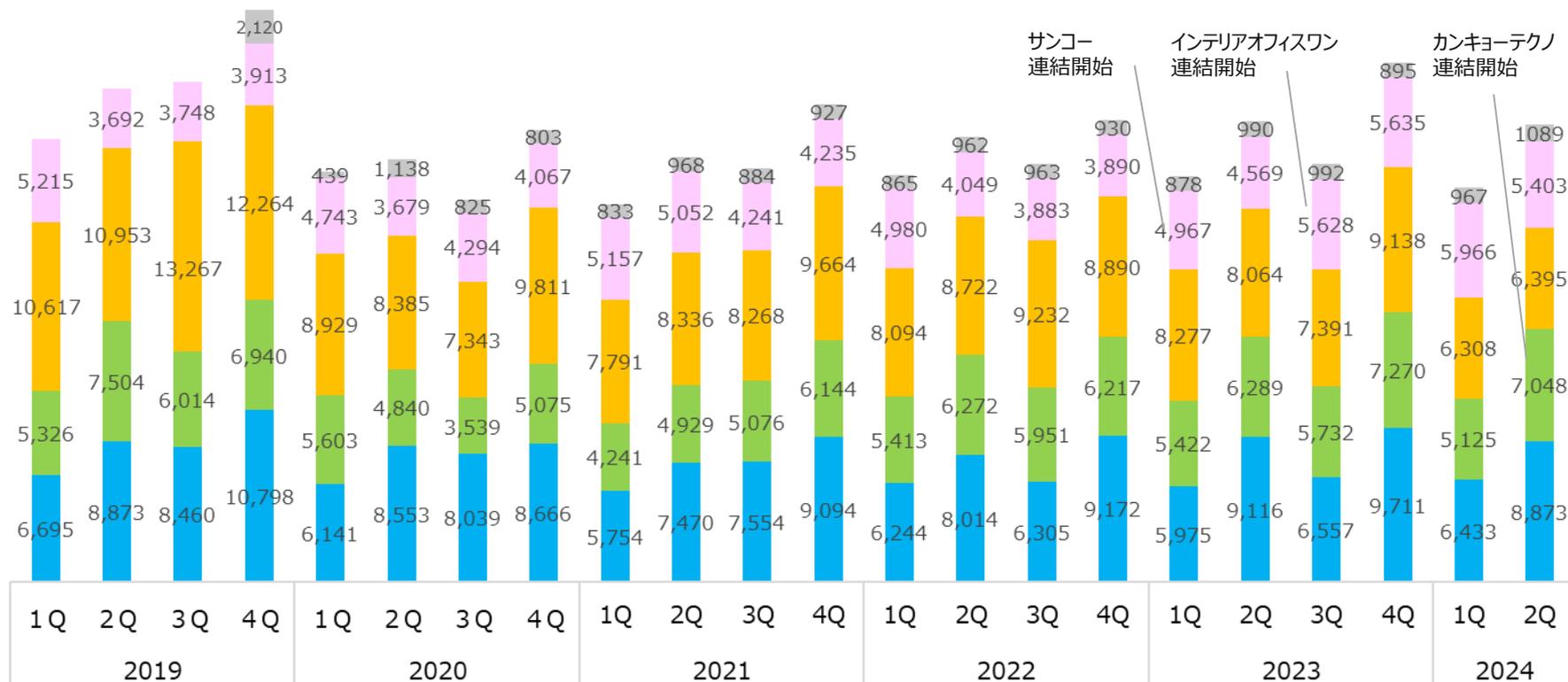
セグメント別 売上高 四半期推移



連結売上高 四半期推移

単位：百万円

■ 衣料繊維 ■ 産業機材 ■ 人とみらい開発 ■ 生活流通 ■ 本社



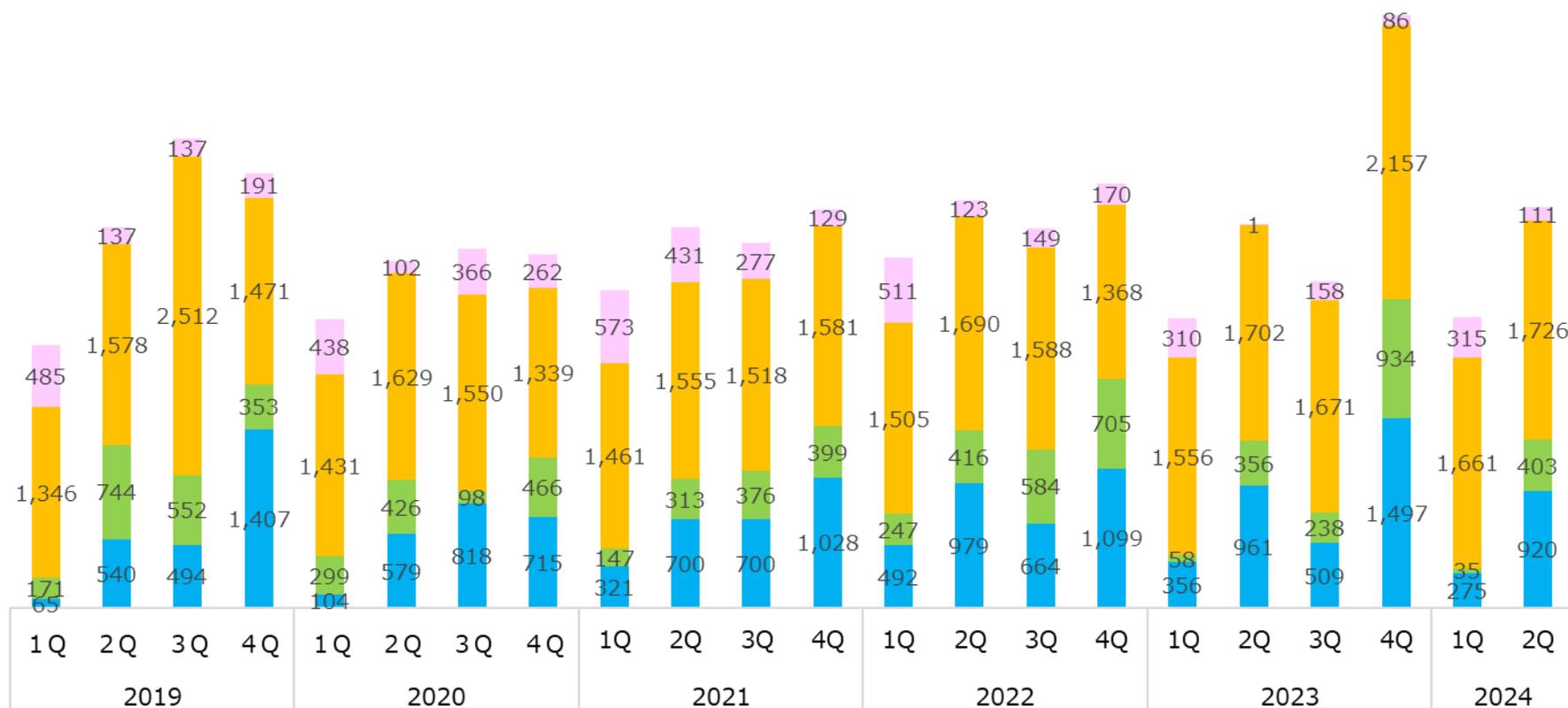
セグメント別 営業利益 四半期推移



連結営業利益 四半期推移

単位：百万円

■ 衣料繊維 ■ 産業機材 ■ 人とみらい開発 ■ 生活流通



※その他・調整額は除く

連結貸借対照表／CF サマリー



(単位：百万円)

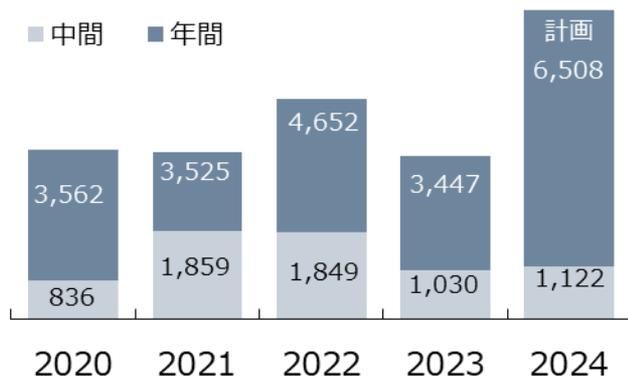
連結貸借対照表	2023/11	2024/5	増減
流動資産	92,823	95,346	2,523
固定資産	73,306	78,365	5,059
資産合計	166,129	173,712	7,583
流動負債	34,258	36,162	1,904
固定負債	17,735	18,007	271
負債合計	51,993	54,169	2,175
株主資本	104,198	106,440	2,242
その他包括利益累計額	8,950	12,089	3,139
非支配株主持分	987	1,013	26
純資産合計	114,135	119,543	5,407
連結C/F	2023/2Q累計	2024/2Q累計	増減
営業キャッシュフロー	4,981	6,121	1,140
投資キャッシュフロー	-175	-3,755	-3,580
財務キャッシュフロー	-1,850	241	2,092
現金及び現金同等物の期末残高	37,978	37,952	-25

設備投資／減価償却費推移



設備投資推移

(単位：百万円)



減価償却費推移



2024年度

主な設備投資	計画	実績
収益不動産の取得	約 15.0億円	—
衣料繊維製造合理化・DX投資等	約 16.8億円	約 1.4億円
ショッピングセンター関連工事	約 7.5億円	約 0.7億円
一宮事業所(遊休エリア)再開発	約 2.7億円	約 1.3億円
神戸本店大規模改修	約 2.3億円	—

- ✓ 2024年度は約65億円の設備投資を計画。第2四半期実績は約11億円
- ✓ 収益不動産については投資効率に見合うか慎重に精査した上で、取得を検討する

2.2024年11月期 業績予想



事業環境認識



衣料繊維 事業

- 日本では少子化により学生数が減少。海外市場への取り組みは必須。
- 世界の衣料市場が回復していくなかで、国内生産による優位性と海外展開が鍵となる。
- 国内産地の疲弊が進み、バリューチェーンの再構築が必要。
- SDGsに謳われる持続可能な社会の実現、環境配慮型素材、多様性がキーワードとなる。



産業機材 事業

- 自動車関連分野は中国市況の影響を受ける。EV化などの技術発展によるビジネスチャンスに引き続き期待。
- 環境関連分野は各地で規制強化が進みビジネスが拡大、家電・OA分野は海外での拡大を見込む。
- リサイクルビジネスなどSDGsを意識した市場の拡大が見込まれる。



人とみらい 開発事業

- 地域密着型ショッピングセンターは堅調に推移。不動産開発分野では省エネビルなど資産価値を高めた物件の引合いが増える。
- ライフサポート分野では介護・保育関連市場は引き続き拡大していくものの、アフター・コロナにおける運営手法やサービスの構築が必要。



生活流通 事業

- Eコマースの盛り上がりはアフター・コロナにおいて落ち着きを見せるものの、その利便性から拡大基調は変わらない。
- Eコマースによるボーダレス化から、海外勢やメーカー直販も含め競合が増加する。仕入品価格や物流費、広告宣伝費用の上昇基調も続く。

2024年11月期 業績予想



セグメント別で増減はあるものの、全体では当初予想から変更無く、人とみらい開発事業の通信・新規サービス分野の縮小等の影響で売上高は前期比減収も、営業利益以下の各利益は前期並みを見込む

	実績		予想	前期比増減	
	2022/11月期	2023/11月期	2024/11月期	金額	比率
(単位：百万円)					
売上高	109,048	113,497	111,000	-2,497	-2.2%
営業利益	10,707	11,016	11,000	-16	-0.1%
営業利益率	9.8%	9.7%	9.9%	0.2%	-
経常利益	11,715	11,634	11,600	-34	-0.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,283	7,643	7,700	57	0.7%

2024年11月期 セグメント別業績予想



		実績		予想		前期比増減	
		2022/11月期	2023/11月期	2024/11月期		金額	比率
				2024.1.12	2024.7.12		
(単位：百万円)							
衣料繊維	売上高	29,735	31,359	32,500	32,500	1,141	3.6%
	営業利益	3,234	3,323	3,450	3,450	127	3.8%
	営業利益率	10.9%	10.6%	10.6%	10.6%	-0.0%	-
産業機材	売上高	23,853	24,713	26,000	26,000	1,287	5.2%
	営業利益	1,952	1,586	1,850	1,850	264	16.6%
	営業利益率	8.2%	6.4%	7.1%	7.1%	0.7%	-
人とみらい 開発	売上高	34,938	32,870	26,000	26,000	-6,870	-20.9%
	営業利益	6,151	7,086	6,200	6,550	-536	-7.6%
	営業利益率	17.6%	21.6%	23.8%	25.1%	3.5%	-
生活流通	売上高	16,802	20,799	24,500	24,500	3,701	17.8%
	営業利益	953	555	1,350	1,000	445	80.2%
	営業利益率	5.7%	2.7%	5.5%	4.1%	1.4%	-
その他 調整	売上高	3,720	3,755	2,000	2,000	-1,755	-46.7%
	営業利益	-1,584	-1,536	-1,850	-1,850	-314	-
合計	売上高	109,048	113,497	111,000	111,000	-2,497	-2.2%
	営業利益	10,707	11,016	11,000	11,000	-16	-0.1%
	営業利益率	9.8%	9.7%	9.9%	9.9%	0.2%	-

2024年11月期 業績予想増減要因



	予想 2024年/11月期	前期比の主な増減要因
衣料繊維	売上高 +1,141百万円 営業利益 +127百万円	✓ ユニフォーム：スクール向けの価格改定、ビジネス受注回復
産業機材	売上高 +1,287百万円 営業利益 +264百万円	✓ 不織布：アンビックとフジコーの経営統合効果、カンキョーテクノ連結開始 ✓ FA：新規顧客の拡充、収益性の改善
人とみらい 開発	売上高 ▲6,870百万円 営業利益 ▲536百万円	✓ 通信・新規サービス：収益性とリスクを考慮し事業を縮小 ✓ 不動産開発：販売用不動産を前期に売却
生活流通	売上高 +3,701百万円 営業利益 +445百万円	✓ EC：インテリアオフィスワン通期連結の寄与
その他 調整	売上高 ▲1,755百万円 営業利益 ▲314百万円	✓ その他調整：調整・予備費等を見込む

人とみらい開発事業：商業施設運営事業等が堅調に推移している為、前期比では減益も当初業績予想に対しては増益に上方修正
生活流通事業：EC関連事業のコスト上昇が収益を圧迫している為、前期比では増益も当初業績予想に対しては減益に下方修正

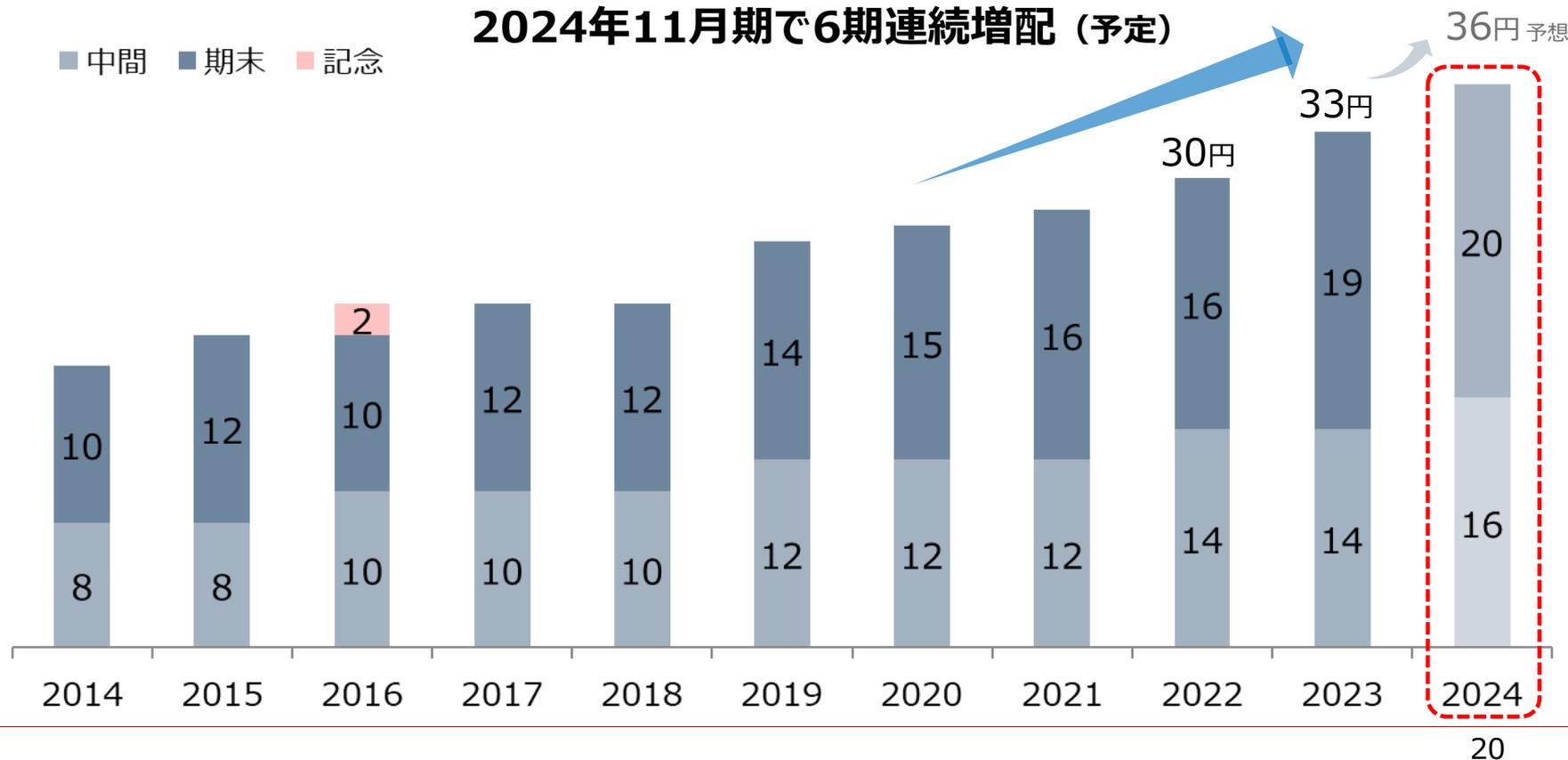
2024年11月期 配当予想



2024年11月期の中間配当は1株当たり16円（前期中間配当14円）
 期末配当は1株当たり20円（予想）で年間 36円の配当を予想

2024年11月期で6期連続増配（予定）

■ 中間 ■ 期末 ■ 記念



トピックス

01 (株)東洋紡カンキョーテクノの株式取得 ※1

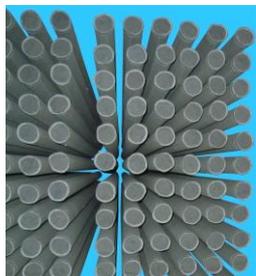


不織布事業を強化し自動車関連・環境関連事業の拡大を図る

当社は、中長期ビジョン「ニッケグループ RN（リニューアル・ニッケ）130 ビジョン」において自動車・環境関連事業を産業機材事業分野の成長ドライバーと位置づけ、成長市場に向けて独自性のある製品やサービスを提供することにより収益拡大を推し進めております。一方、株式会社カンキョーテクノは、「21世紀の地球環境への貢献」を理念とし、「食料」「エネルギー」「環境」の3つの課題に対し、自社の技術をフルに活用して機能性と利便性を付与したフィルターを提供することにより、21世紀の快適な地球環境の創造に貢献しています。

今回のグループ会社化を機に、両社の製造技術を共有し相互に活用することで、お客さまをはじめ関係者の皆さまに、今まで以上により良い製品とサービスをお届けし、ニッケグループの企業価値向上に努めてまいります。

カンキョーテクノの主な製品



フィルターバッグ関連



エアフィルター関連

株式会社カンキョーテクノ ×



会社名：株式会社カンキョーテクノ
所在地：大阪府大阪市中央区久太郎町二丁目
4番27号 堺筋本町TFビル5階
代表者：代表取締役 山口賢一
資本金：90百万円
従業員：84名

※1 株式会社東洋紡カンキョーテクノは2024年4月17日付で商号を「株式会社カンキョーテクノ」に変更しております。

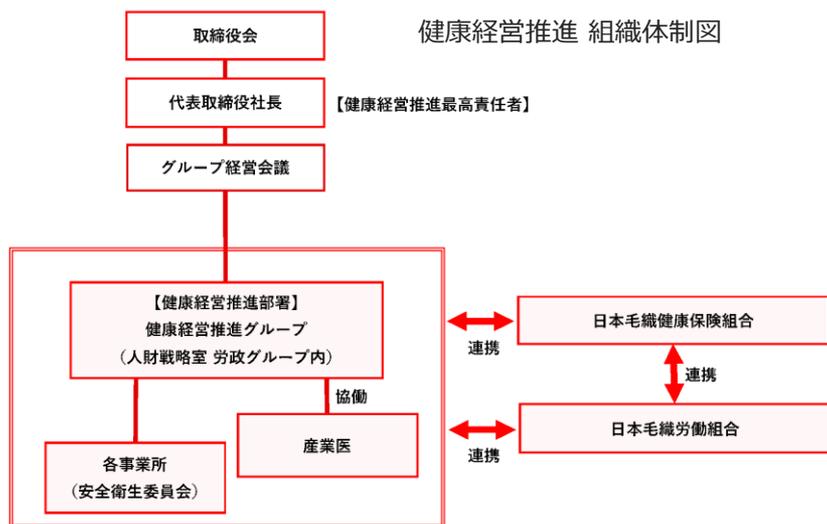
トピックス

02 健康経営優良法人2024に認定 (大規模法人部門)



今後も「健康経営」を積極的に推進

ニッケは、2023年6月に「ニッケ健康宣言」を制定し、従業員の健康保持・向上を推進しております。そしてこのたび、経済産業省および日本健康会議が主催する「健康経営優良法人2024（大規模法人部門）」に認定されましたのでお知らせいたします。「健康経営優良法人」は、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度であり、当社グループでは健康経営推進の指標としてグループ各社での認定取得※1を目指しております。



－ ニッケ健康宣言 －

わたしたちは生き活きと生命力あふれた企業を目指し、
従業員の健康維持・向上に努めます。



代表取締役社長 長岡 豊



2024
健康経営優良法人
Health and productivity

3.成長ドライバー



ニッケグループの今後の成長ドライバー



- ① 不織布・フェルト事業の強化
- ② 海外ビジネスの拡大
- ③ 不動産開発事業の推進
- ④ EC事業の強化
- ⑤ 戦略的M&A

成長ドライバー①不織布・フェルト事業の強化

不織布・フェルト事業強化の取り組み

2020年 5月 ニッケ・アンビックとフジコーの間で資本業務提携契約を締結（30.7%の株式取得）

2021年 1月 フジコー館林工場を閉鎖し、生産をアンビックへ移管

2021年 9月 ニッケがフジコーを完全子会社化

2023年12月 アンビックとフジコーが経営統合

2024年 4月 東洋紡カンキョーテクノの株式取得 ※1

アンビックとフジコー経営統合の目的

- ① **経営資源を集中**し効率的に配分する。
- ② 販売・製造・研究開発・海外拠点の最適化を図り**バリューチェーンを再構築**する。
- ③ 一元管理により、**経営基盤の強化**を図る。等

カンキョーテクノの主な製品



フィルターバッグ関連



エアフィルター関連

主な不織布・フェルト商材



株式会社エフアンドエイノンウーブンズ（通称:FANS）

- ✓ 2024年4月に東洋紡カンキョーテクノの株式取得
⇒ FANSとの協業により**環境用フィルター（フィルターバッグ）**の販売を一本化

※ 1 株式会社東洋紡カンキョーテクノは2024年4月17日付で商号を「株式会社カンキョーテクノ」に変更しております。

成長ドライバー①不織布・フェルト事業の強化

ターゲット市場

- ニッケグループがターゲットとする不織布・フェルト市場は**自動車・環境関連等の工業用資材分野**
- 厚手の不織布市場を主なターゲット領域とする

不織布・フェルト市場

ターゲット市場

自動車・環境関連分野



ゴミ集塵機用フィルター



古着反毛



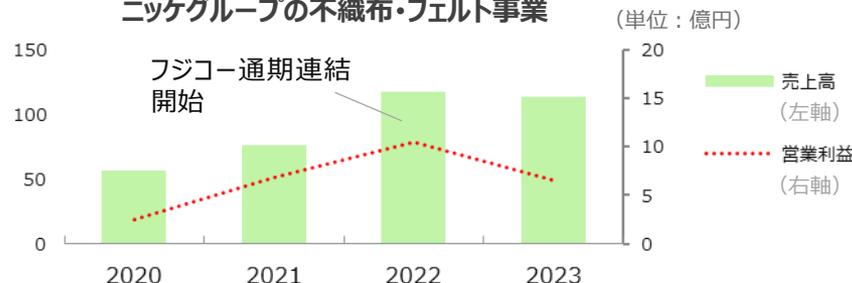
自動車用内装資材

競争優位性

■ M&Aによる事業拡大と業績改善の実績（ノウハウ）

2021年にフジコーをM&Aでグループに加え、生産統合等の合理化を進めた結果、2022年には**収益性を大幅に改善**。さらに2024年には東洋紡カンキョーテクノ（現カンキョーテクノ）をM&Aでグループに加え、不織布・フェルト事業を拡大。

ニッケグループの不織布・フェルト事業



■ 中国・ASEAN地域の製造・販売拠点の活用

ニッケグループには国内外に多数の不織布・フェルトの製造・販売拠点があり、顧客のニーズに合わせて多様な事業展開が可能。今後**インドネシア等で生産設備の増強**を予定。



FANS (インドネシア製造拠点)

- ✓ 不織布・フェルト事業を、スクールユニフォーム、不動産開発に次ぐ**ニッケグループ「第3の柱」**に育成 ⇒ M&Aの活用等により工業用資材分野の不織布・フェルト市場で**更なるシェア拡大**を目指す

成長ドライバー② 海外ビジネスの拡大

ニッケグループ

ターゲット市場

- ニッケグループがターゲットとする海外アパレル市場は主に**ハイブランド向けのテキスタイル生地販売**

海外アパレル市場

ターゲット市場



- ニッケグループが展開する海外アパレル市場（地域）は主に**欧米・アジア**
- ハイブランドやミドルブランドをターゲットに**テキスタイル生地販売**を強化

重点施策

- 展示会出展等プロモーション強化による**認知度向上**



世界最高峰の服地見本市（ブルエール・ビジョン）に出展



パリでのニッケ初の単独個展開催

ニッケ特有の製法（技術）による生地の**ハードな風合い**や**仕立て映え**は、欧米・アジアのテキスタイルメーカーには再現が難しい

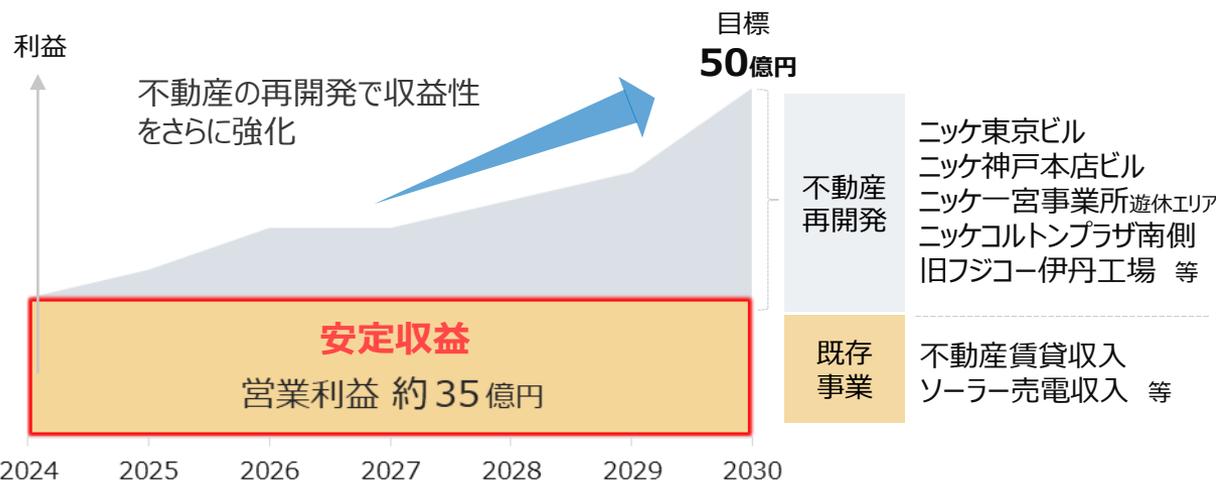


- ✓ 新規顧客の開拓や顧客とのリレーションを深める為に、**ブランディング**や**プロモーション**を強化
⇒ 新たな地域での展示会出展や新設したショールーム（上海）の活用により顧客接点が増加

成長ドライバー③不動産開発事業の推進



再開発案件	所在地	収益貢献	進捗スケジュール (予定)		
			2024	2025	2026
ニッケ東京ビル	東京都中央区	大	工期		--- 収益貢献本格化 ---
ニッケ神戸本店ビル	兵庫県神戸市	小	工期		----- 収益貢献本格化 -----
ニッケ一宮事業所 (遊休エリア)	愛知県一宮市	中	工期		----- 収益貢献本格化 -----
ニッケコルトンプラザ南側	千葉県市川市	大	開発プラン検討		
旧フジコー伊丹工場	兵庫県伊丹市	大	開発プラン検討		



ニッケ東京ビル (新)



ニッケ神戸本店ビル (現)



ニッケコルトンプラザ



旧フジコー伊丹工場

- ✓ 各再開発案件は概ね計画通り順調に進捗 ⇒ ニッケ一宮事業所 (遊休エリア) は一部収益貢献開始
- ✓ 不動産賃貸は再開発等により2030年に**営業利益50億円達成**を目指す (現状約35億円)

成長ドライバー④ EC事業の強化



SPA（製造小売）のバリューチェーンを最適化

EC事業の強化

① 企画開発・販売力の更なる強化

EC販売を主体とするミヤコ商事、AQUA、サンコー、インテリアオフィスワン4社の**人財・システム・ノウハウ**の共有化を進め、企画開発・販売力をさらに強化する。

② 商品ラインナップの拡充

ニッケグループが保有する様々な商品・サービスのEC販売化（**EC販売比率UP**）を推し進める。

海外向けを含めホビークラブ関連（スタンプ・インク）商品のEC販売化に注力



③ 物流の合理化

物流業務の効率化によりコストを削減する。

主なEC関連商材



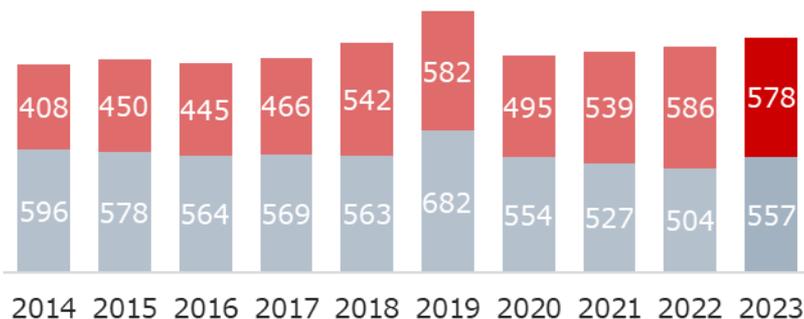
- ✓ オリジナルの自社企画商品を増やし**価格競争力を高める事で収益性の改善**を図る
⇒ EC販売を主体とするグループ各社の知見を集約し企画開発力を強化

成長ドライバー ⑤戦略的M&A

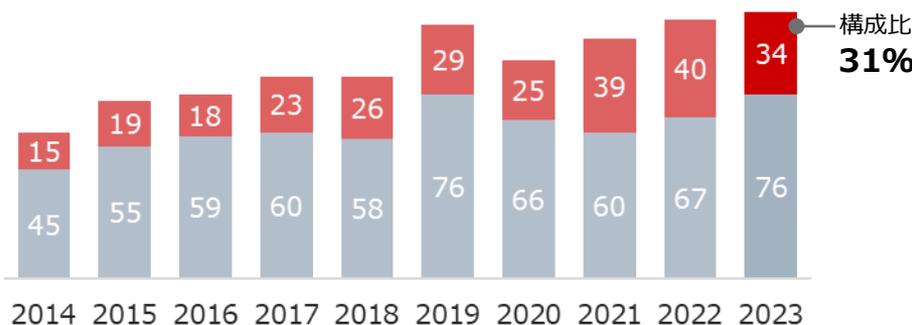


M&Aの業績への寄与 ※1

売上高



営業利益



M & A 戦略

① 事業領域の拡大と合理化

- 商品、サービスのラインナップやバリューチェーンを拡充する
- 事業の統合等により経営を合理化する

② 人財・資産の有効活用

- 優秀な人財や不動産等を確保し有効に活用する

これまでの主な実績

株式会社カンキョーテクノ 2024年4月 (集塵機器等の加工・販売)

Interior Office One 2023年6月 (EC企画・開発・寝具販売)

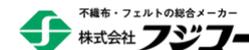
KYOTO MEDICAL PLANNING 2019年4月 (医療機器等の製造・販売)



(元) ミヤコ商事代表取締役社長

(現) 執行役員
生活流通事業部長 藤井裕士

2016年3月
(EC卸売業)



2021年5月 (不織布製造・販売)

2023年12月 アンピックと経営統合

- ✓ M&Aによる業績への寄与は2023年営業利益ベースで全体の約31%を占める
- ✓ 2024年4月に東洋紡カンキョーテクノの株式を取得

※1 1995年以降M&Aでニッケグループに加わった会社を対象

※2 株式会社東洋紡カンキョーテクノは2024年4月17日付で商号を「株式会社カンキョーテクノ」に変更しております。

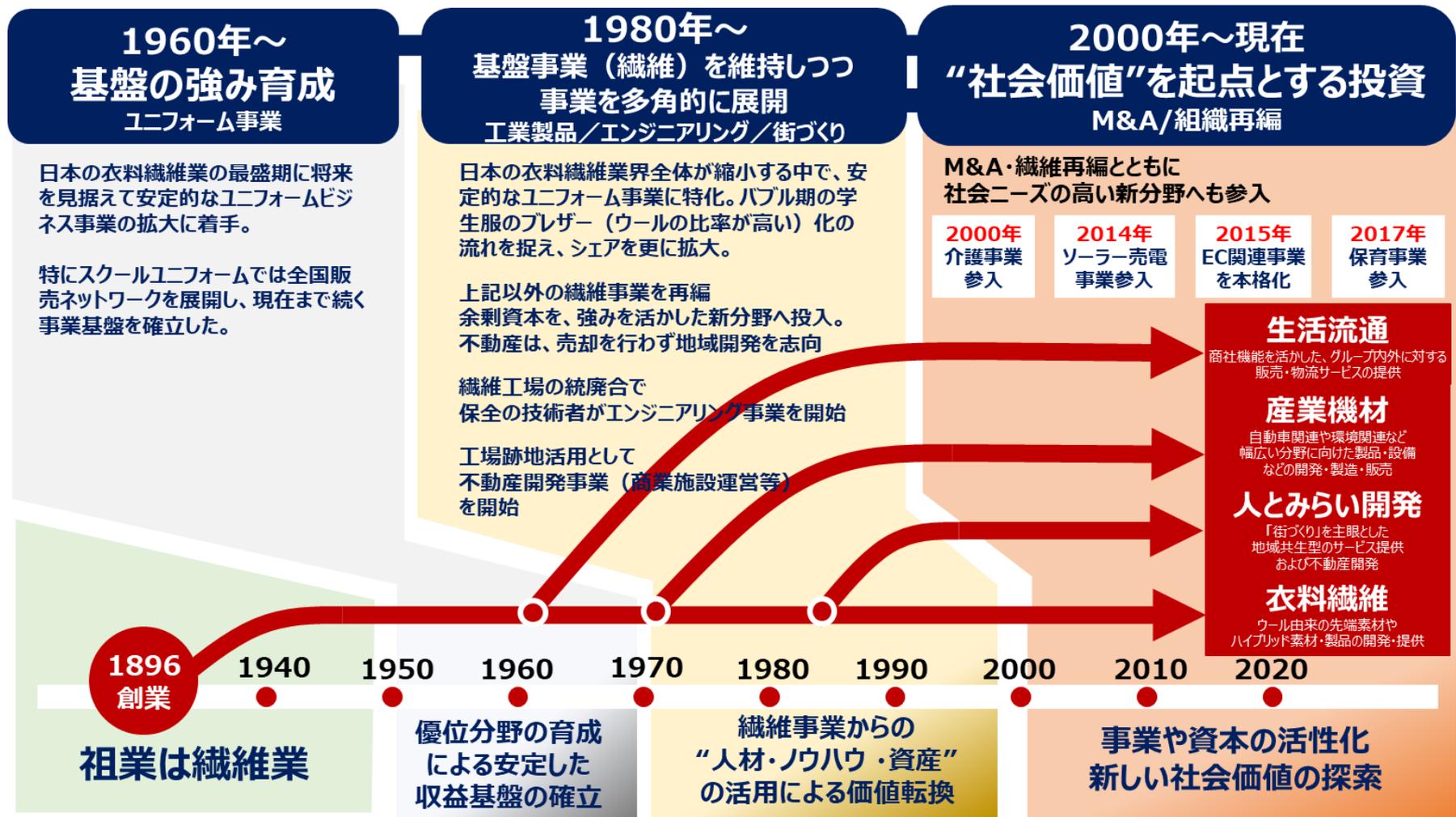
4. 参考資料

4. 参考資料

ニッケグループについて

- ① 価値転換の歴史
 - ② 事業領域とサービス
 - ③ 各事業の特色（衣料繊維・産業機材・人とみらい開発・生活流通）
 - ④ 資本政策・株主還元方針
 - ⑤ RN130第3次中計の位置付け
 - ⑥ 資本収益性向上に向けた取り組み
 - ⑦ マテリアリティ
 - ⑧ 連結会社数の推移
 - ⑨ 配当指標
 - ⑩ 株価チャート
- ※ 羊毛原料相場・為替相場の推移

ニッケグループの歩み 価値転換の歴史



ニッケグループの事業領域とサービス



売上構成	事業領域	セグメント内 売上構成	主な取り扱い商品・サービス
 衣料繊維 事業 30%	<ul style="list-style-type: none"> ■ ユニフォーム ■ テキスタイル ■ ヤーン ■ その他 	81% 12% 6% 1%	<u>学校制服用素材</u> / <u>一般企業制服用素材</u> / <u>官公庁制服用素材</u> <u>一般衣料用素材</u> <u>売糸</u> <u>その他</u>
 産業機材 事業 24%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自動車関連 ■ 環境関連 ■ その他産業関連 ■ 生活関連 	42% 18% 27% 13%	<u>FA/緩衝材/エアバッグ・シートベルト用縫製糸/モーター結束紐</u> <u>フィルター/エネルギー関連設備</u> <u>OA・家電向け資材/半導体関連製品</u> <u>ラケットスポーツ関連/フィッシング関連/楽器用資材</u>
 人とみらい 開発事業 25%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 商業施設運営 ■ 不動産開発 ■ ライフサポート ■ 通信・新規サービス 	23% 35% 32% 11%	<u>商業施設運営</u> <u>不動産賃貸/ソーラー売電事業/建設事業</u> <u>保育・学童保育/介護/スポーツ関連</u> <u>通信関連/キッズランド/フランチャイズ事業</u>
 生活流通 事業 22%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 寝装品・業務用品 ■ 生活雑貨 ■ ホビー・クラフト ■ その他 	17% 56% 15% 12%	<u>寝装品/航空機内膝掛毛布/災害備蓄用毛布</u> <u>生活家電・雑貨/100円ショップ向け雑貨/家具/フィルム</u> <u>スタンプ用インク・スタンプ/乗馬用品/手編毛糸</u> <u>コンテナ販売/保険代理店</u>

※売上構成・セグメント内売上構成は2024年11月期第2四半期 実績ベース

※売上構成は全社売上高からその他・調整部門売上高2,056百万円を除いた売上高をベースに算出

衣料繊維事業の特色



スクールユニフォームの生地販売が主力

衣料繊維事業の**約50%**はスクールユニフォーム関連の売上



スクールユニフォーム
関連売上



ブレザータイプの学生服

スクールユニフォームはリピート商材なので流行に左右されず**安定的な需要**が見込めます。

事業の優位性

- ✓ 高い製造力
- ✓ グループ内でサプライチェーンが完結する一貫供給体制

スクールユニフォームは入学式に必ず間に合わせる必要があります。また1年生から3年生まで制服の色味を揃えなければなりません。天然素材のウールを原料として使用する事の多いブレザー型の学生服の製造には特に高い技術が求められます。

中学校・高校の学生服生地
約50～60%のシェア※1

継続的に収益性を改善

衣料繊維事業では販売アイテムの見直しや製造コスト削減に積極的に取り組む事で、継続的に収益性を改善しています。

- ・汎用品（テキスタイル・糸）販売の縮小
- ・製造、販売体制の見直し（生産集約・販売統合）
- ・省エネ、省人、自動化による製造合理化



※1 当社調べの推定値（ブレザー型の学生服で特にシェアが高い）

産業機材事業の特色



自動車関連分野の売上が最大

自動車関連分野

内装資材関連

エンジニアリング関連



内装資材関連：フェルト・不織布・糸（紐）

エアバッグ用縫製糸

シートベルト用縫製糸



断熱・緩衝材



モーター結束糸

旧フジコー（現FANS）をグループに加え、内装資材関連の製品（フェルト・不織布）等を拡充



フロアーカーベット

エンジニアリング関連：FA（ファクトリーオートメーション）



設計技術者100名以上



製造技術者80名以上

カスタムメイドの生産システムを提案

製造ラインの設備仕様の立案から設計・製作・現地立上げ・アフターサービスまで一貫して対応

繊維工場の保全・修繕の技術者が
エンジニアリング事業を開始（1970年代～）

人とみらい開発事業の特色



ストック収入で安定したキャッシュフローを確保

人とみらい開発事業の営業利益の**約80%**は商業施設運営のテナントからの賃料収入とオフィスビル・土地等の不動産賃貸収入です。

自社運営の商業施設



ニッケコルトンプラザ

所在地 : 千葉県市川市鬼高1丁目1番1号
 設立 : 1988年11月25日
 敷地面積 : 約43,000坪
 店舗面積 : 71,000㎡



ニッケパークタウン

所在地 : 兵庫県加古川市加古川町寺家町173-1
 設立 : 1984年2月8日
 敷地面積 : 約22,100坪
 店舗面積 : 42,000㎡



- 自社運営の商業施設はニッケコルトンプラザ・ニッケパークタウンの2施設
- 商業施設周辺ではスポーツ・介護・保育等、**地域密着型のサービス**を複合的に展開
- 各サービスを自社で運営する事で**付加価値を上げ収益性を向上**

安定と収益性改善を追求

人とみらい開発事業では保有不動産の用途見直し等により付加価値を高める事で、安定した収益を確保しつつ、収益性の改善に努めています。



ソーラー売電施設（兵庫県）

用途変更
ゴルフ場

**ソーラー
売電施設**

また、収益性が低下した物件や遠隔地で管理が難しい物件等は状況に応じて売却しています。

売却実績 2019年 1件
2023年 3件



※ 自社で運営する2施設以外に商業施設の運営管理のみを行うPM（プロパティマネジメント）を複数件受託

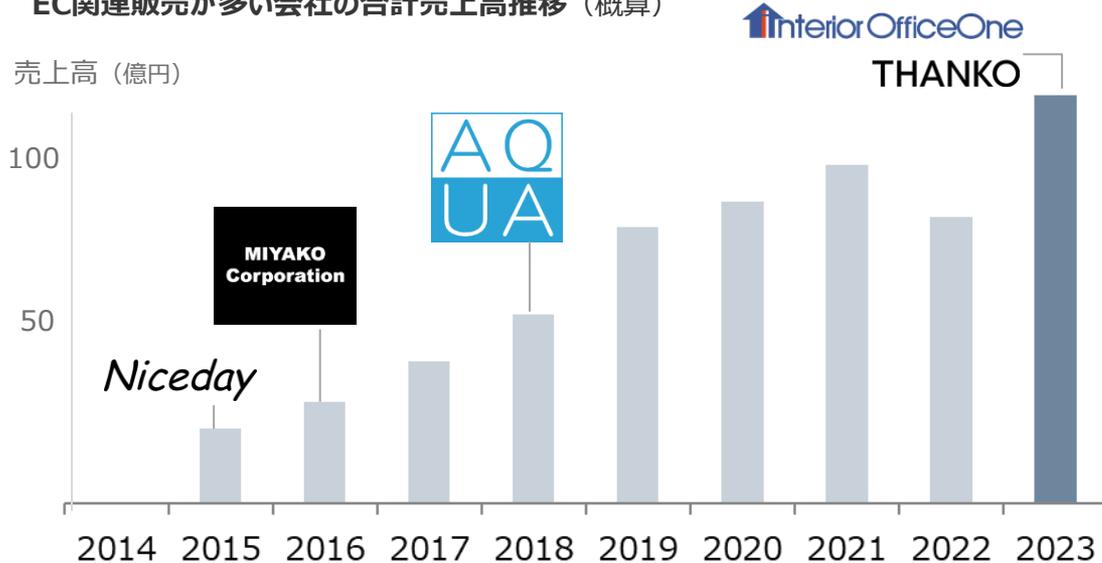
生活流通事業の特色



EC関連販売の売上高が50%以上

生活流事業では様々な商品・サービスを扱っていますが、EC関連販売が多い会社の合計売上が半分以上を占めます。

EC関連販売が多い会社の合計売上高推移 (概算)



ニッケグループで扱う主なEC関連商材



寝装品



家具



キッチン用品



生活家電



ネッククーラー



寝具 (ベッド)

EC関連販売が多い会社

- ミヤコ商事 (2016年連結開始)
- サンコー (2023年連結開始)
- AQUA (2018年連結開始)
- インテリアオフィスワン (2023年連結開始)

2023年にサンコーとインテリアオフィスワンがグループに加わり、EC販売の知見を有する人財やEC関連商材がさらに拡充

※ 2015年にグループに加わった (連結開始) 株式会社ナイスデイは2022年に株式会社AQUAと合併

資本政策・株主還元方針



考え方

- ✓ 成長投資と安定的な株主還元のバランスを志向する。
- ✓ 成長投資については、研究開発投資、M & A 投資、設備投資、人財投資など、中長期的な企業価値の向上の観点から積極的に実行する。

株主還元方針

- ✓ 安定的な配当政策を目標とする。
- ✓ 配当性向については、現行の30%目安から順次切り上げ、第3次中計最終年度での35%を目指す。
- ✓ 投資の進捗も鑑みて機動的な自己株式取得を行い、総合的な株主還元を充実させる。

RN130第3次中計の位置付け

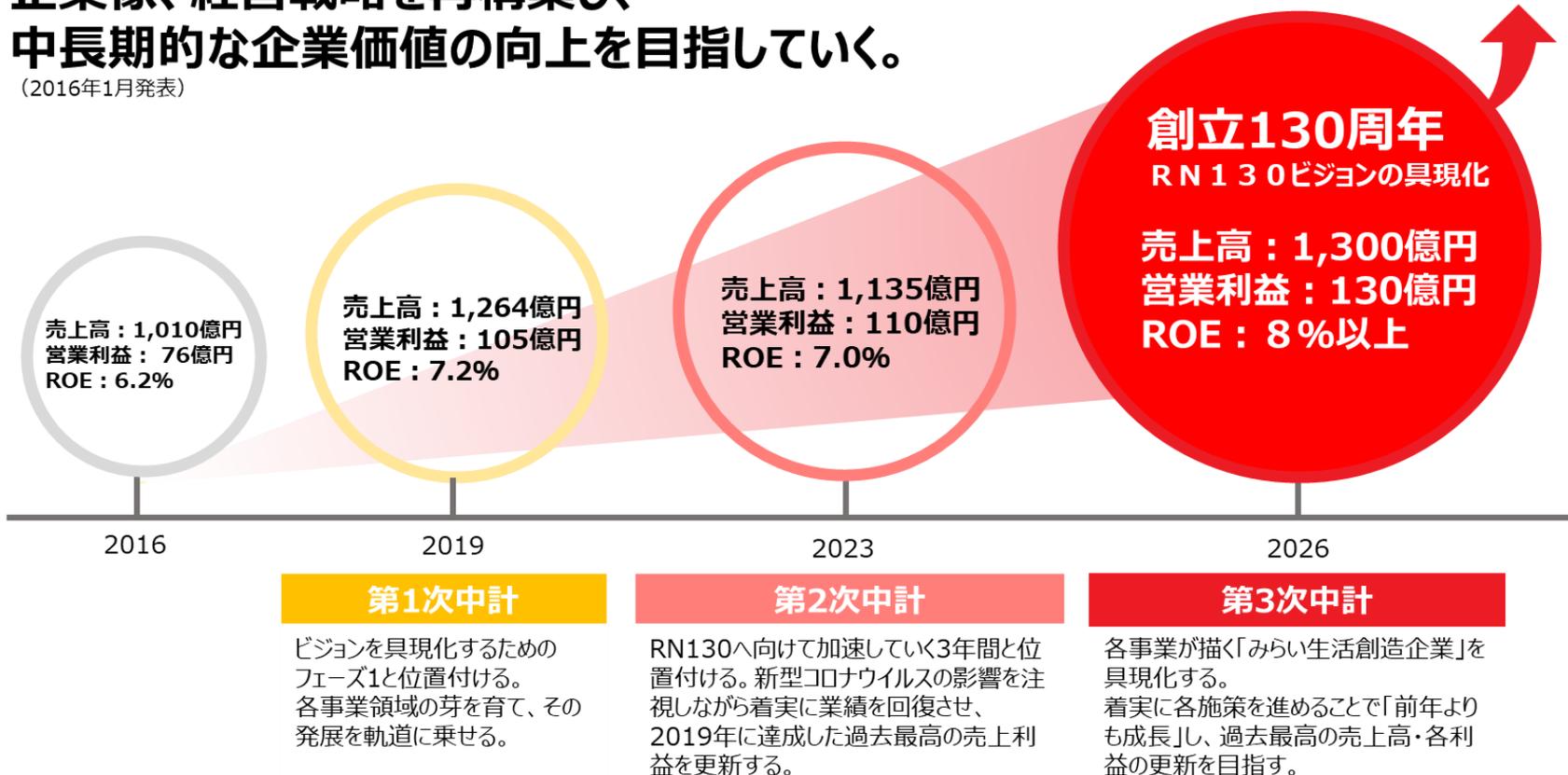


中長期ビジョン「ニッケグループRN（リニューアル・ニッケ）130ビジョン」

今後10年間のニッケグループの目指す方向性、
企業像、経営戦略を再構築し、
中長期的な企業価値の向上を目指していく。

(2016年1月発表)

売上高
2,000億円
企業グループへ



資本収益性向上に向けた取り組み



利益創出の強化	資産効率の向上	資本政策の強化	IR強化
<ul style="list-style-type: none">● RN130第3次中期経営計画を推進・達成する● 事業ポートフォリオの最適化を図る（成長事業への投資、不採算事業の見直し）	<ul style="list-style-type: none">● 保有不動産の更なる効率化（不採算物件の再開発、処分など）● 非稼働資産の圧縮（保有意義のない政策保有株式の整理など）● 投資基準としてROICを指標として継続する（目標8%・最低5%以上）	<ul style="list-style-type: none">● 株主還元の強化● 配当性向については、現行の30%目安から順次切り上げ、第3次中計最終年度での35%を目指す● 投資の進捗も鑑みて機動的な自己株式取得を行い、総合的な株主還元を充実させる	<ul style="list-style-type: none">● ステークホルダーがニッケグループへの理解や信頼を高めることができるように対話の強化を図る● M&A戦略や事業多角化戦略を説明し、ニッケグループの成長ストーリーを発信する● 情報開示の拡充・高度化を進める（IR資料の英文対応など）



資本収益性を意識した経営を推進し、
ROE8%目標の達成と**PBR1倍超**を目指してまいります。

ニッケグループのマテリアリティ



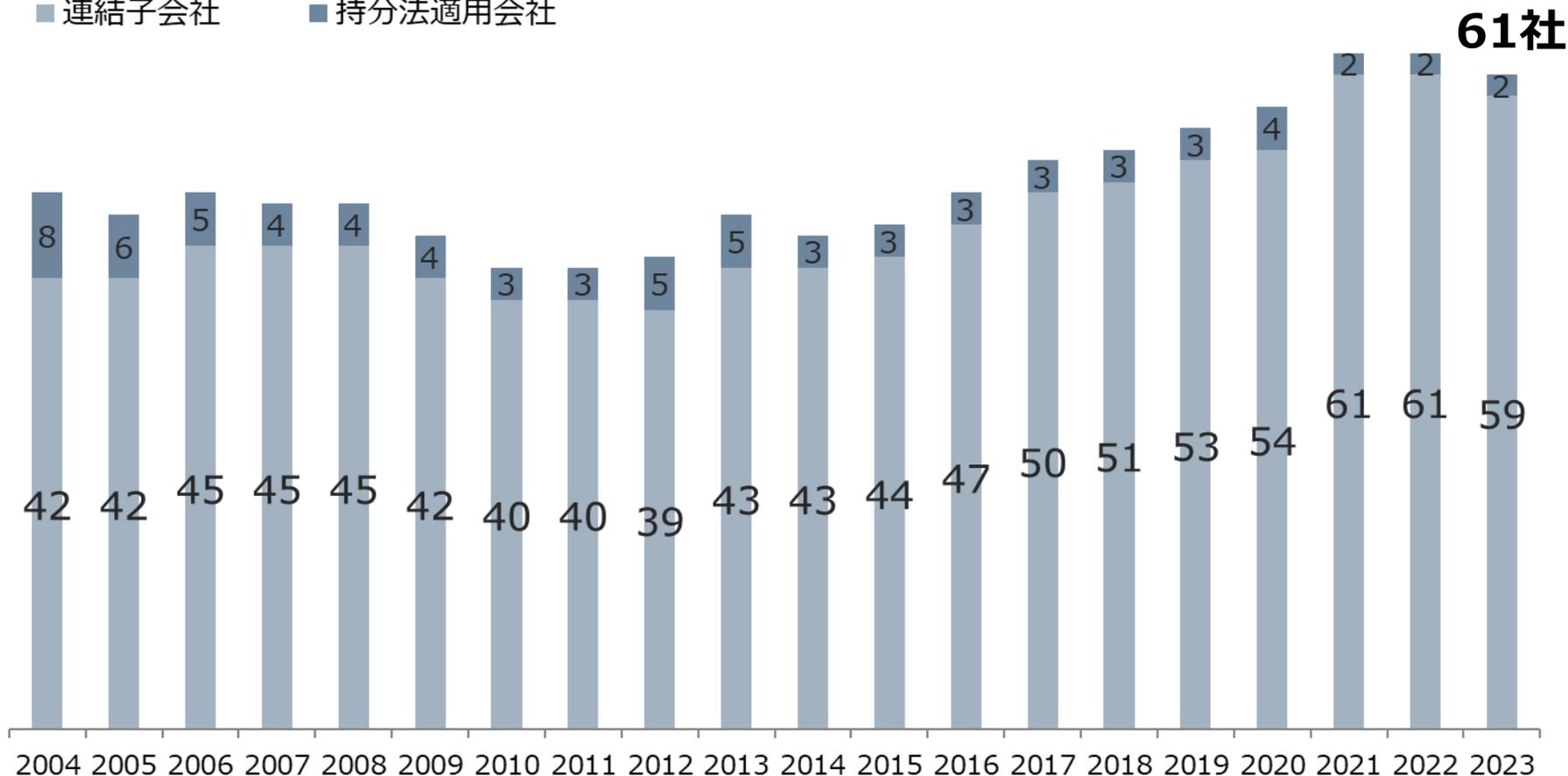
ニッケグループでは4つのマテリアリティを特定し、各々の対応方針を定めた上で事業を推進していきます。

社会的な課題やニーズ	マテリアリティ	対応方針	関連するSDGs
<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化社会への対応 ● ウェル・ビーイングの実現 	健康・快適への取り組み 快適な暮らしのサポート	<p>ショッピングセンターを拠点とした地域密着型の複合的なサービスの展開により、地域の活性化と利便性の高い街づくりに貢献する。</p> <p>利用者のニーズにあわせた介護、保育関連施設の運営により、仕事と育児・介護の両立を支援するとともに利用者のQOLの向上に貢献する。</p> <p>繊維の技術を活用し、身体への負担が少ないメディカルデバイスや、再生医療・創薬の研究を支える細胞培養基材を開発し、人々の健康とQOLの向上に貢献する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 製品の安全性確保 ● 高品質な製品の安定供給 	安全・安心への取り組み バリューチェーンのマネジメント	<p>お客様に満足していただける製品を提供するために、品質管理体制の継続的な見直しと強化を図る。</p> <p>原材料の産地や品質を特定できるしくみを構築することで、お客様へ提供する商品の安全性を確保する。</p> <p>バリューチェーンの最適化を図ることで、安定的に商品を提供し続ける。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動への対策 ● エネルギー問題への対応 ● 大量生産・大量消費からの脱却 	環境への取り組み 持続可能な地球環境への貢献	<p>環境配慮型商品の研究開発と販売により、環境負荷の低減に貢献する。</p> <p>製品の再利用や再生材料の使用による循環型社会の推進に貢献する。</p> <p>太陽光発電を通じ再生可能なグリーンエネルギーを提供する。</p> <p>地球環境の保全を最重要の経営課題と認識し、環境保全体制の継続的な見直しと強化を図る。</p> <p>各事業において省エネルギー施策を推進する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンスの遵守 ● 人権の尊重 ● ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ● 健康経営の実践 	経営基盤の強化	<p>企業倫理規範の実践を自らの重要な役割と認識して経営にあたり、実効あるガバナンスを構築し、率先垂範してニッケグループ内にその周知徹底と定着化を図る。</p> <p>国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、国際的に認められた人権規約と労働基準を支持・尊重し、人種、性別、宗教、性自認、障がいの有無等により不当に扱われることのないよう相互の理解と尊重に努め、社会から信頼される企業グループづくりに努める。</p> <p>広く人財を求め、多様な「知」を集集して事業にイノベーションをもたらす。</p> <p>活き活きと生命力あふれた企業を目指し、従業員の健康維持・向上に努める（ニッケ健康宣言）。</p>	

ニッケグループ連結会社数推移



■ 連結子会社 ■ 持分法適用会社

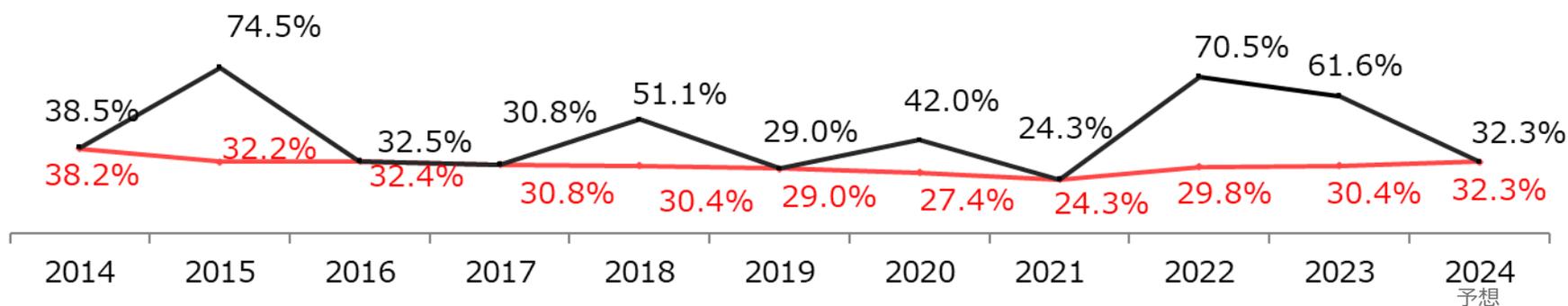


※各年11月末時点でのニッケグループ会社数

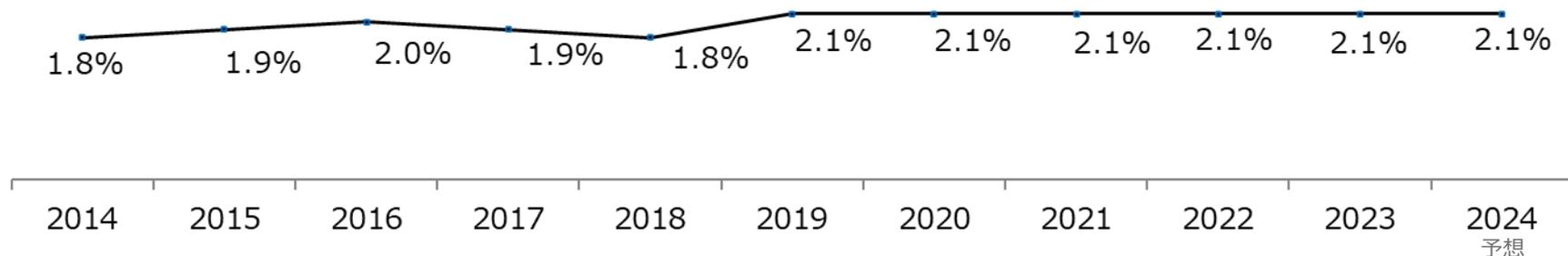
配当指標



— 配当性向 — 総還元性向

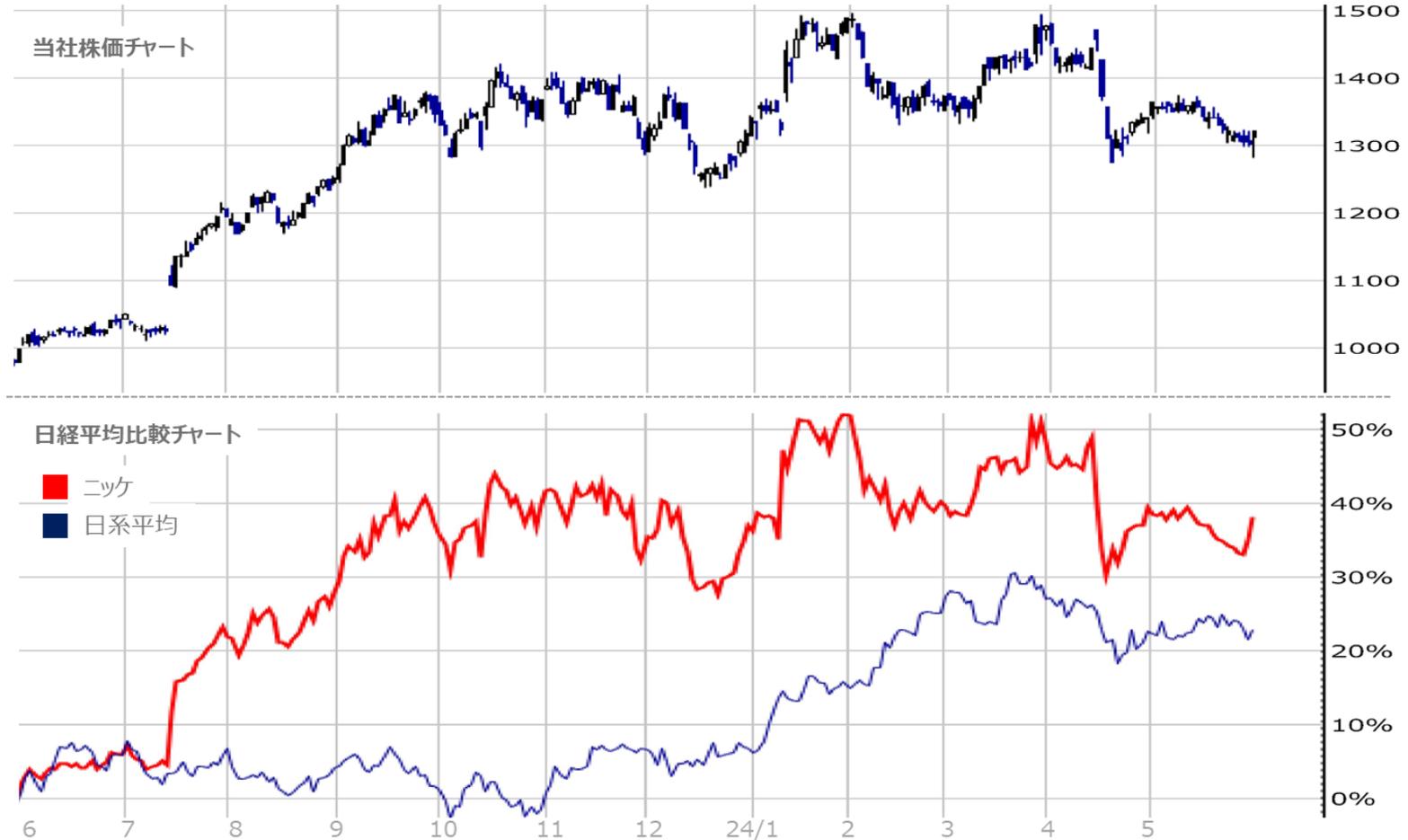


— 株主資本配当率 (DOE)



株価チャート

期間：2023/6/1～2024/5/31（直近1年）



※羊毛原料相場・為替相場の推移

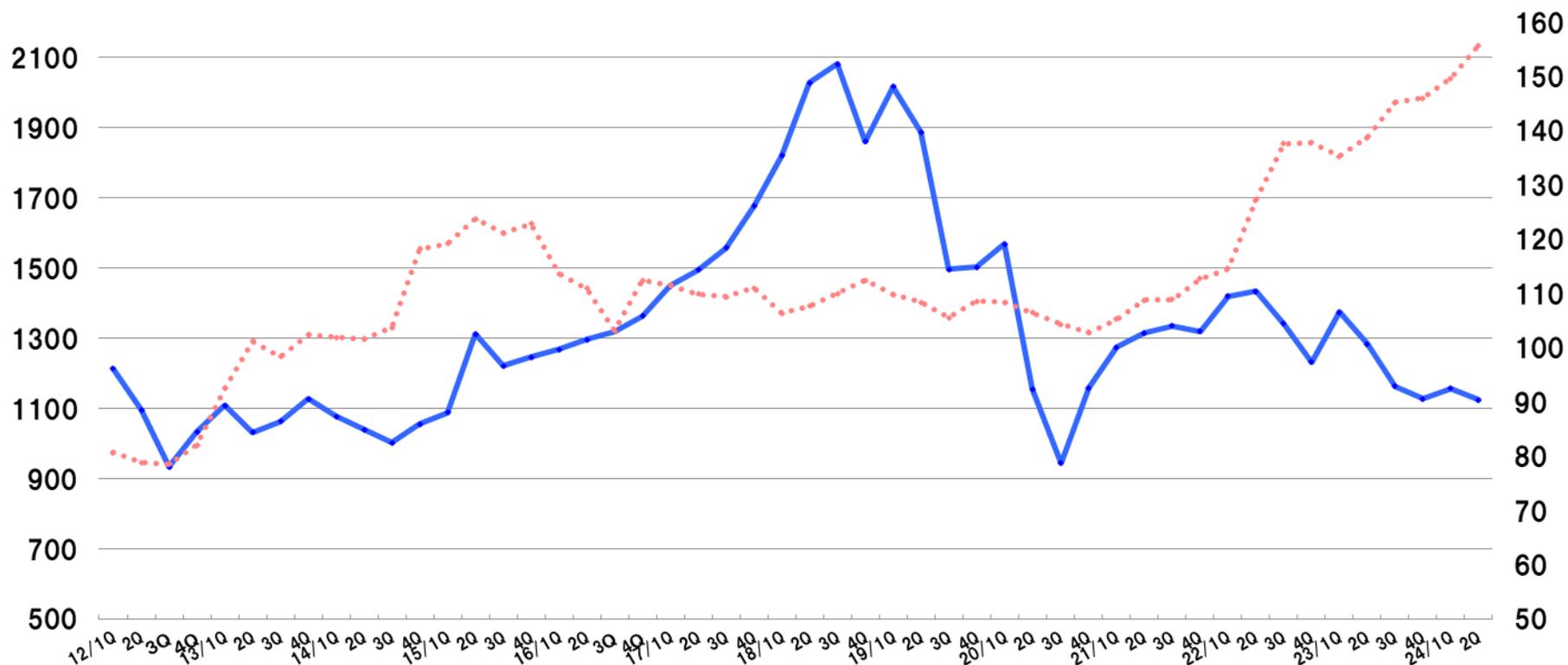
EMI（豪州羊毛東部市場価格指標）推移

AUC ¢ /kg

— EMI（左軸）

..... US\$（右軸）

円/US\$



※羊毛原料：衣料繊維事業の主原料として使用



本資料の取り扱いについて

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画に関する記述等は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。